

真田宝物館だより

第17号

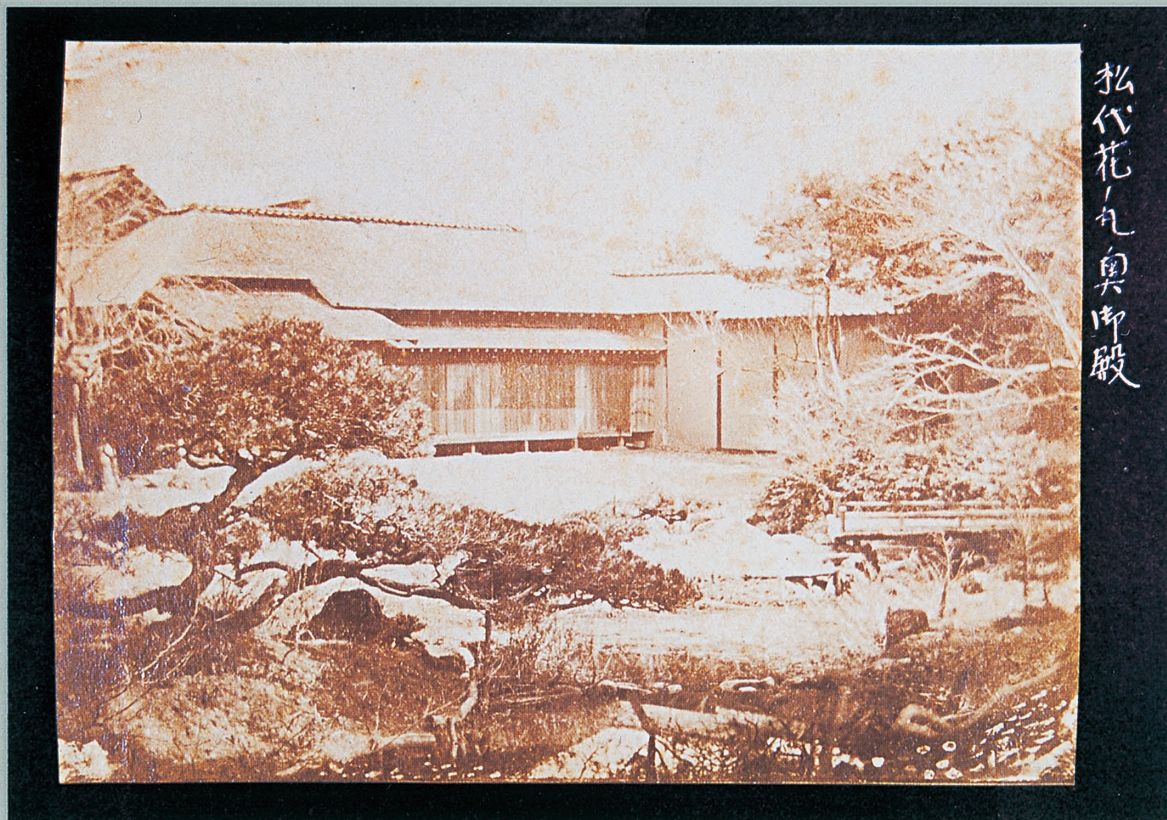
# 六<sup>あ</sup>連<sup>れん</sup>銭<sup>せん</sup>

平成17年3月31日発行

〒381-1231 長野市松代町松代4-1(真田宝物館)

## 新発見

### 松代城の古写真



松代花ノ丸・奥御殿

松代花ノ丸・奥御殿の古写真(個人蔵)

庭園から建物をとったもの(写真寸法8.6cm\*11.7cm)

埴科郡字西條村恵明寺本堂



松代 恵明寺の古写真

表紙写真（松代花ノ丸・奥御殿と同じ  
台紙の裏面に貼られている。（写真寸法  
8.0 cm \* 9.9 cm）「埴科郡字西條村恵明寺本  
堂」と台紙に書かれている。

埴科郡字東條村清滝観音堂



松代 清滝寺の古写真

裏面写真（松代花ノ丸・奥御殿と同じ  
台紙の裏面に貼られている。（写真寸法  
7.5 cm \* 11.0 cm）「埴科郡字東條村清滝観音  
堂」と台紙に書かれている。

## 今回発見された古写真について

昨年、長野市内の個人の方から真田宝物館に四枚の古写真が持ち込まれました。

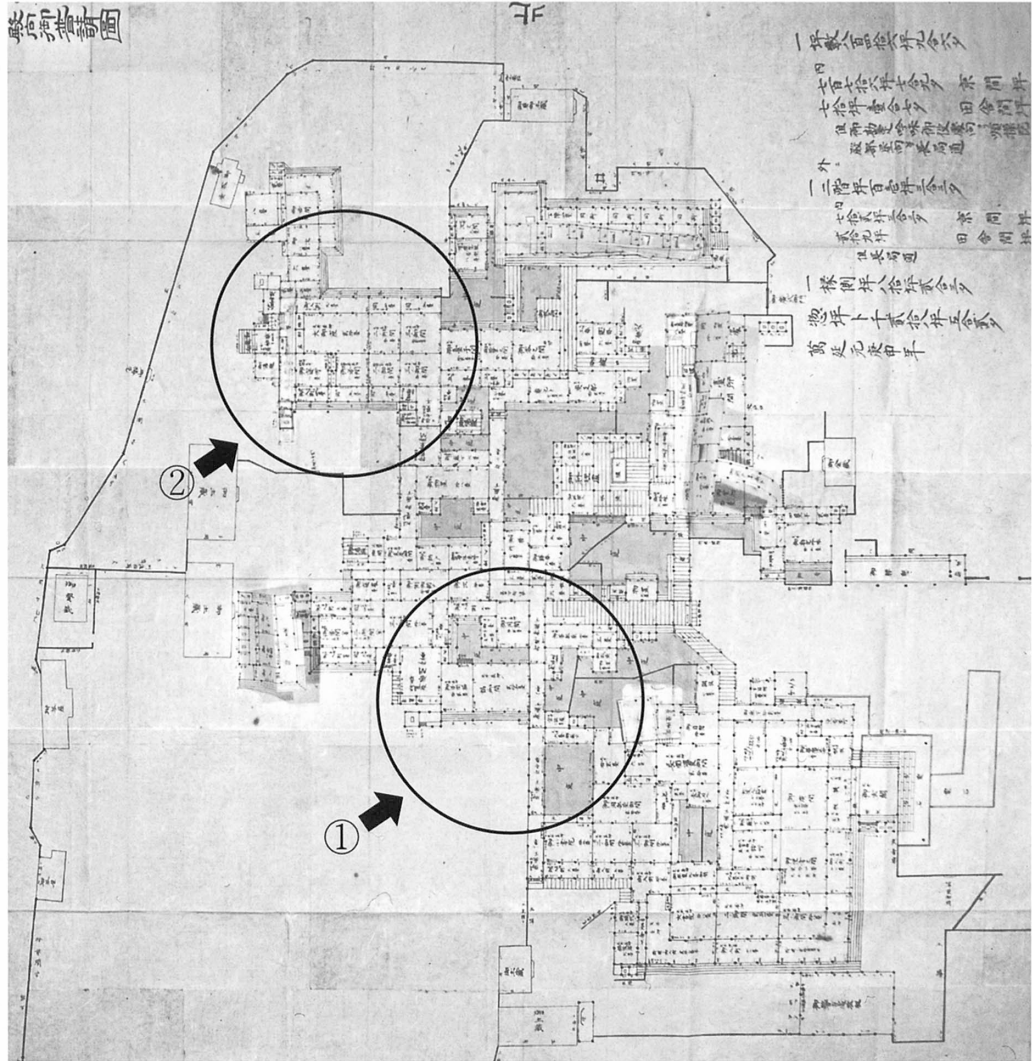
写真は台紙に貼られており、写真の横、台紙の余白には「松代花ノ丸奥御殿」「全上」「埴科郡字西條村恵明寺本堂」「埴科郡字東條村清滝観音堂」と白い文字で書かれています。二枚は松代城の藩主御殿・花ノ丸の奥御殿の写真であることがわかります。またもう二点は、松代に現存する寺院の写真です。ただこの書き込みは、撮影当初からのものであるかは疑問です。

写真の正確な位置づけについてはまだ行っておりませんので、今後の課題として残すこととします。ただ写された松代城花ノ丸御殿の様子や、花ノ丸御殿が明治六年（一八七三）に焼失しているのも、幕末から明治のごく初期のものであるというところが想定されます。

特筆すべきは、松代城の写真はこれまで確認されていないので、新発見であるということです。この写真がどのようなかたちで現在まで残されたのかよくわかりませんが、真田家もしくはごく近い人物のもとに伝わったものと思われれます。

写真は台帳に貼られており、もとは一枚の台紙に片面二枚ずつ貼られていたものでした。現在は半分は裁断され、二枚の台紙に表裏一枚ずつ、計四枚の写真が貼られるという装丁です。当初から四枚だけの写真しか存在しなかったのか、それともこのほかにもあるのか、この点は判断とできませんが、これ以外にも当時の写真があった可能性に期待したいものです。

撮影者の問題ですが、松代城の奥御殿を撮影していることなどから、藩主やその近親者であったのかもしれない。奥御殿を写した一方の写真には、男性・女性が六人ほど写っています。これらの人々が誰に当たるのか、今後に託される課題は多くあります。

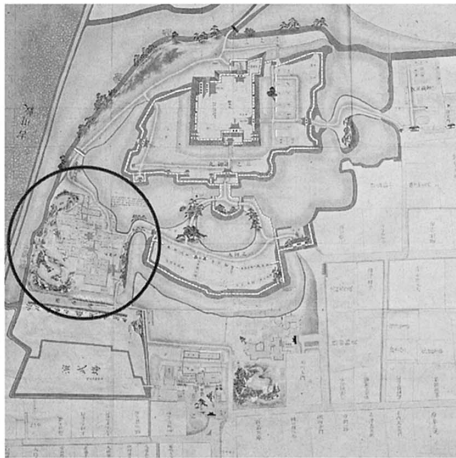


花御丸御殿向御普請図

(長野市立博物館蔵・浦野家文書)

写真の撮影ポイント(矢印)と、撮影された建物(マルの部分)を示した。

①は表紙写真、②は裏面写真である。



松代城図 (真田宝物館蔵・松代小学校資料)

大正時代に作成された松代城の縄張り図。左下(マルで囲まれた部分)が花ノ丸御殿。

【表紙写真】松代花ノ丸奥御殿

写真の奥には、平屋建て、草葺一部瓦葺の建物が、手前には池を配した庭園が写っています。

万延元年(一八六〇)に作成された「花御丸御殿向御普請図」(長野市立博物館蔵・浦野家文書)に照らし合わせると、屋根の棟位置や、建物と庭園の配置から、謁居間・謁居間脇の建物を南西の方向から撮影した写真で間違いのないと思われます。

(小林 育英)

【裏面写真】松代花ノ丸奥御殿

写真右側には平屋建ての建物、左奥には二階建ての建物、その手前に棧敷や風呂場のような建物が写っています。左端は敷地境界であろうか、大木が写っています。前出「花御丸御殿向御普請図」に照らし合わせると、御殿北西部の御湯殿、御書斎周辺を南西から撮影した写真と推測できます。

(小林 育英)



奥御殿の人物(写真寸法 8.8cm\*11.6cm)

花ノ丸御殿の北側建物には6人の人物が写っています。庭に3人、建物内部には1階に2人、奥の2階建て建物の窓からは1人顔を出しています。

これらの人物がだれにあたるのか、今後、諸資料の検討から明らかにされる可能性があります。

